

9月・10月 法座のご案内

9月22日(日) 彼岸会

時間：午後1時開始

田中教照師をお招きし、彼岸会を執り行います。

田中教照師

- ・ 山口県出身
- ・ 元武蔵野女子大学学長
- ・ 武蔵野大学名誉教授

Plofire

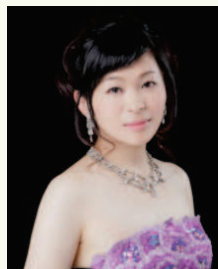


《 昭和51年撮影(誓願寺にて) 》

10月13日(日) 仏教讃歌コンサート

時間：午前10時開始

おまいりの後にオペラ歌手による仏教讃歌コンサートを開催します。



田坂蘭子(ソプラノ)



岡本泰寛(テノール)



頼田恵(ピアノ)



われもひかりのうちにあり

誓願寺住職 古賀尚之

ガンで闘病なさっていたお父様を亡くされたご親族から質問がありました。「父は今、病のことは忘れて楽になっているのでしょうか。」

皆さまはどのようにお思いでしょうか。私なりにお答えするとしたら。

阿弥陀様は、「われにまかせよ 必ず救う」とおっしゃっています。今すでに、病や悩みから解放された世界・人間の抱える苦しみのない世界・お浄土に生まれ、ほどこさまになられています。どうぞご安心くださいと。



しんらん同人

No.582

9・10
月号

浄土真宗本願寺派 誓願寺
〒171-0052 東京都豊島区南長崎1-3-8
【電話】03-3950-7828

【ホームページ】<http://www.seiganji-tokyo.jp/>

理屈はいらない

誓願寺 前住職 故岡本泰仁

宗教の世界は、いくら理屈をわかっていても、わが身に喜びと懺悔（さんげ）の心が生まれてこないという意味がない。どうも最近は、理屈ばかりに走りがちな傾向がある。

その点、妙好人の味わいは理屈抜きで、如来の慈光に包まれた喜びと、み光によって自らを深く見つめる懺悔の生活がある。

才市老は、下駄を作る傍ら、五年間に千三百余りの詩を書き残している。どれをとっても、歓びと謝恩と懺悔の詩である。

「さいちこころになにがある

さいちこころにじごくがある

まいにちまいにちほのおがもえる

めにはみえねどこれがしょうこよ

ありがたいなあおやさまが

わしのこころへ

なあみだぶつととろけあい

ごおんうれしやなあみだぶつ」

私の心に地獄がある。毎日毎日煩惱の火が燃えている。これがみんな地獄の種である。煩惱の為に忙しい忙しいと追い

立てられて、安らかな時はない。どうしようもないのである。思ってはならないことを思い、言ってはならないことを言い、してはならないことをしている私である。み光のお育てを頂ければ頂くほど、わが身の浅ましさが知られて、自分ながら嫌になる。無常とは知らされながら、本当は少しも無常とは思っていない。自分の上には何事も起こってこないように思っている。いつまでも生きられるように思っている。しかし、南無阿弥陀仏の親さまが、私の心へとろけ込んで下さると、

「さいちにはなんにもない

よろこびほかにはなんにもない

ないがらくなよ あんきなよ

なあみだぶつに みなとられ

これこそあんきな なあみだぶつ」

となるのである。

「あなたこころを わたしがもらい

わたしこころを あなたにとられ」

である。如来の真心を私がもらい、私の浅ましい心が、如来に取り上げられるのである。

親鸞聖人は「煩惱を断ぜずして涅槃を得る」と仰せられた。

如来の真心を私が頂くのだから、涅槃を得るのである。私の煩惱悪業は如来に

取り上げられるから、煩惱を断ぜずして自分の煩惱を断ち切るのではなく、煩惱をかかえたままが、お救いにあずかるのである。

こうなってみると

「さいちよいへい

たりきをきかせんかいへえ

たりきじりきはありません

ただただいたくばかり」

となるのであります。

「念仏の衆生を救わずば、仏とはならじ」と誓われ、その誓願を仕上げられた南無阿弥陀仏を聞信させて頂くと、何もかも如来のお計らいばかり、自分のすることと思うことがなにひとつ役には立たぬ。ただ如来のお計らいにまかせて、念仏申すばかりである。念仏は、生きながらえた念仏で、浮世たつまで申す念仏である。浮世たつまで申す念仏であって、死ぬときの念仏ではない。今日を念仏しつつ精一杯に生き抜かせて頂くのである。

合掌



副住職
法話

古賀明德

彼岸会を前に偲うこと



諸事情により8月からお寺を離れ中野区に部屋を借りて暮らすことになりました。今までのように法務もきちんと行いますし、家族と喧嘩をしたからなんて理由ではないのでご心配なく。お寺を出て暮らし始めてやはり改めて気付くのは母親・母さんの有難さと大変さです。お寺で母さんと一緒に暮らしていると、決まった時間に食事は出てきますし、掃除や洗濯も気にすることなくいつも終わっている。それをこれからは自分でしないといけない。当たり前だと思われる方も多くいらっしゃると思いますが、改めて私は甘えた生活を送っていたものだなと気付かされます。自分でやらないといけないことがたくさん出てきます。子どもの事を自分のこと以上に思ってくれている母さんがいたから安心して生活を送っていたことを今まで考えることさえなかった私自身を少し恥ずかしく思います。

阿弥陀様は時折お母さんのようだと例えられます。自分自身の事よりも私たちの喜びを願いはたらいしてくれている。いつもいつでも見守り続け、いつこのいのちが終わっても安心できるように思い続けてくださっている。もし、阿弥陀様がいなかったなら、私たちは自分自身でいのちの終わった先の事を考え、行動していかなければならない。厳しい修行やいろんなことを我慢した生活を送っていかなければならないのかもしれない。お恥ずかしながら間違いなく私にはできません。阿弥陀様がいてくださるから、阿弥陀様にお任せしてこのいのちを終えていくことができるのです。

母さんと離れて暮らすことで改めて、その大変さや有難さに気づかされました。これからは時間があるごとに少しずつかもしれないけれど親孝行をしていきたいと考えています。そして、それと共に母さんのような阿弥陀様に対しても喜んでもらえるような日々を送っていききたいと改めて思います。

最近、ご法話でよくお話させていただくのが、私たちは仏様のために何ができるのかという事です。皆様の中には大切なお父様やお母様、お連れ合いさん、家族の方とのいのちのお別れを経験された方が多くいらっしゃるでしょう。でも、その方々、お念仏を大切にされた方々は今阿弥陀様のおはたらきで仏様と成られ、ずっとずっとずっとずっと皆様の事をそばで見守ってくれている。私たちが何かをする必要、親孝行やご恩返しをする必要も無いのです。この上ない喜びを感じられている仏様に成られたのだから。ならば、せめてその方と出会うことでいただいた今を、寂しくて悲しくて辛くて会いたいと思う気持ちを抱えながら、時折涙を流すかもしれないけれども、この今を精一杯に笑顔で元気に毎日を喜びながら暮らす姿をお見せすることが一番喜んでくれるのではないかなと思うのです。お母さんのようにいつも見守ってくれている阿弥陀様や仏様は自分の見返りを求めてはたらいいてくれるわけでは決してありません。大切に思う方々が今を安心して生きていくことができるようにはたらいいてくれているのです。だったら、そのお心に報いるために今をそう生きていくことが大切なのではないかなと思うのです。そして、それを一番喜んでくれるのではないかなと思うのです。

大切な方に感謝しながら毎日を大切に過ごしていく。改めてご一緒に考えさせていただきましょう。

合掌

ご法座等 のご案内

どなたでもご自由に参加いただけます。
参加費は無料です。



9月

9・8 (日)

■午前十時～

定例法座・婦人会物故者追悼法要

【平田聖子師（愛知県）】

■正午～

医療相談

【佐藤公彦医師】

9・15 (日)

■午前十時～

なかよしクラブ

(乳幼児から小学生までとその保護者)

9・22 (日)

■午後一時～

彼岸会・祥月命日合同法要

【田中教照師（埼玉県）】

10月

10・13 (日)

■午前十時～

定例法座・仏教讃歌コンサート

■正午～

医療相談

【佐藤公彦医師】

10・20 (日)

■午前十時～

なかよしクラブ

(乳幼児から小学生までとその保護者)

10・27 (日)

■午後一時～

定例法座・祥月命日合同法要

【小柴隆幸師（東京都）】

編集後記



・「孟蘭盆会」を七月八月の二回開催いたしました。それぞれに多くのお参りがありました。

・今回の「われもひかりのうちにあり」につきましては、様々なご意見があると思いつながら掲載いたしました。皆様からのお便りをお待ちしております。

・夏休み期間を利用して、孫たちがベトナムから一時帰国し、お寺が賑やかになりましたが、九月になり元の静けさが戻りました。「またね!」のお別れをしましたので、再会の楽しみで寂しさが癒えます。

・令和七年の法座ご講師へのお願い。カレンダー準備。来寺記念品準備等々宿題が山積です。一人で抱え込まず分担して頑張りましょう。



〔7/14 孟蘭盆会の様子
と古賀明徳師〕



〔8/11 孟蘭盆会の様子と宮本廣宣師〕

